

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 7 区分

【発行日】平成29年6月8日(2017.6.8)

【公開番号】特開2016-160013(P2016-160013A)

【公開日】平成28年9月5日(2016.9.5)

【年通号数】公開・登録公報2016-053

【出願番号】特願2015-38271(P2015-38271)

【国際特許分類】

B 6 6 B 9/187 (2006.01)

F 1 6 B 5/06 (2006.01)

F 1 6 B 2/06 (2006.01)

E 0 4 G 3/28 (2006.01)

【F I】

B 6 6 B 9/187

F 1 6 B 5/06 C

F 1 6 B 2/06 A

E 0 4 G 3/28 3 0 1 A

【手続補正書】

【提出日】平成29年4月17日(2017.4.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

支持金具(2)は、図 1 に示すように、建物(B)の屋上の外縁部(B2)に前後方向に締付固定されるネジ式の F 型クランプ(21)と、F 型クランプ(21)の前アゴ部(211)に前方に張り出すように取り付けられた左右 1 対の支持プレート(22)とを備えている。

ガイドレール(1)は、その上端部が支持金具(2)の両支持プレート(22)間に挿入されて、同上端部のウェブ(12)部分と両支持プレート(22)とをボルト・ナットで結合することにより、支持金具(2)によって吊り下げ状に支持されている。

なお、支持金具の構造は、上記に限定されるものではなく、建物の構造や要求される支持強度等に応じて適宜のものを使用することが可能である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

各連結ボルト(5c)の頭部(56)と、左クランプ部材(5a)のクランプ部(52)の受け溝(522)底面との間には、圧縮コイルばね(5d)が介在されている。また、各圧縮コイルばね(5d)と、連結ボルト頭部(56)および受け溝(522)底面との間には、平ワッシャー等よりなる受けリング(58)がそれぞれ介在されている。

これらの圧縮コイルばね(5d)によって、上記弾性部材が構成されており、左右クランプ部材(5a)(5b)は、圧縮コイルばね(5d)の付勢力(ばね弾性力)によって、互いに接近する方向に付勢され、ひいては、両クランプ部材(5a)(5b)によってガイドレール(1)が弾性的に挟持される。

圧縮コイルばね(5d)の付勢力、すなわち、両クランプ部材(5a)(5b)によるガイドレール

(1)の弾性挾持力は、連結ボルト(5c)のネジ孔(551)へのねじ込み量を増減して、圧縮コイルばね(5d)の圧縮量を増減させることにより、調整可能である。

なお、レールクランプの2つのクランプ部材は、図示のものと左右反対であって勿論よい。